徳島小松島港 沖洲ターミナル整備事業 起工式

起工式全景

鍬入れ

徳島小松島港沖洲（外）地区で進める「徳島小松島港沖洲ターミナル整備事業」の起工式が７月30日に行われました。起工式には、徳島県知事をはじめ地元選出国会議員や港湾事業関係者ら約70名が出席し、工事の安全を祈願しました。

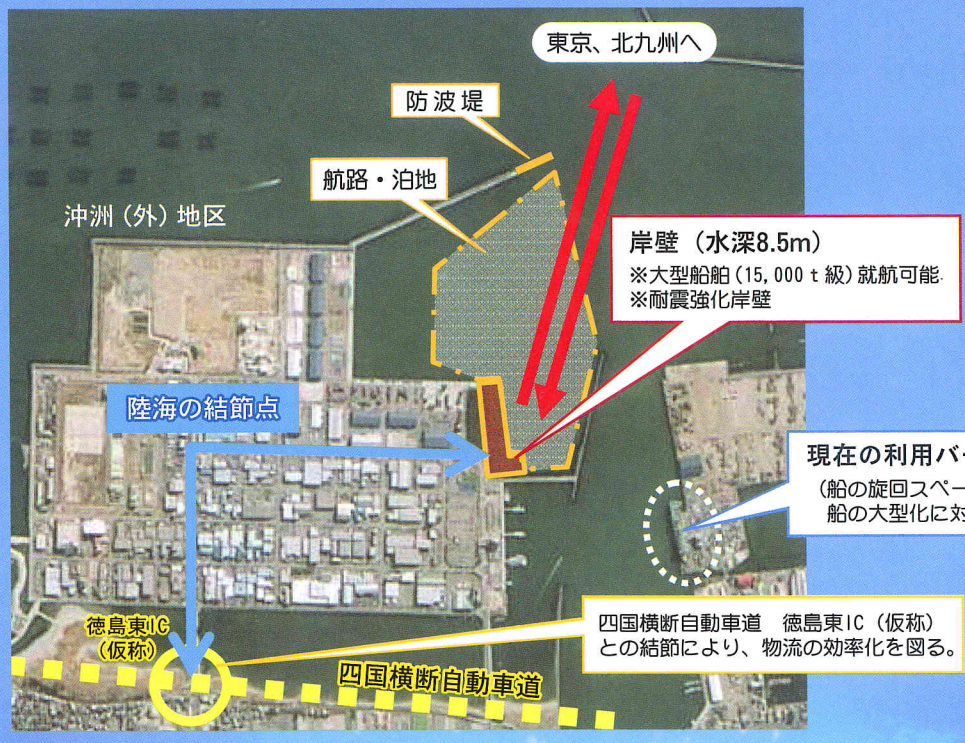
本事業は、水深8.5メートル耐震強化岸壁と背後の埠頭用地を整備するものです。複合一貫輸送ターミナルとして、15,000トン級の大型フェリー等が接岸可能となります。

東南海・南海地震等の大規模地震の発生に備えた『緊急物資等の海上輸送能力の強化』、及び四国横断自動車道と長距離フェリーの輸送手段を組み合わせた『効率的な輸送体系の確立』を目指します。

現在、津田地区に寄港しているオーシャン東九フェリー（東京～徳島～北九州）が、輸送能力の向上と、輸送コスト削減に向けた船体の大型化を検討しており、新たなターミナルを利用する予定となっています。

地域経済の活性化に向け、物流ネットワークのさらなる充実強化に取り組んでいます。

効率的な貨物輸送体系の確立とともに、防災力の向上を目的に港湾整備を推進



岸壁に使用するケーソンを製作しています。

効果１ 震災時の緊急輸送ルートの確保

耐震強化岸壁が整備されることで、震災時の緊急物資を海上輸送で搬入することができます。また、一般貨物についても、継続して岸壁を利用することができ、地元経済の早期復旧・復興につながります。

効果２ フェリーの大型化による効率的な輸送

増加する貨物需要に対応するため、現状より大きな型の船舶の就航を可能とします。また、将来四国横断自動車道との結節が進み、より効率的な輸送が期待されます。